

Muribushi

群星
【むりぶし】

11月★12月 2013年
月号

隔月発行

November

★

December



【特集1】県産野菜の消費拡大に向けて
～野菜ソムリエに聞く「ウチナームン」の魅力～

【特集2】ミラサポ開設！
～中小企業・小規模事業者の未来をサポートします～



表紙写真

首里城漏刻門 (那覇市首里)

別名：かご居せ御門
(かごいせうじょう)

歓会門から城内に入ると3番目にくぐる門。瑞泉門と同じくアーチ形ではない木造やぐら門。

やぐら中央には「漏刻」という扁額が掲げられています。

漏刻とは、中国語で「水時計」という意味で、往時は水槽が置かれ、水が漏れる量で時間を計っていたといわれており、水時計と漏刻門の近くに置かれた日影台(日時計)を利用して時刻をはかって太鼓を打つと、それに呼応して城内の各展望台等で鐘が鳴らされて城外に時が知らされました。

また、漏刻門では身分の高い役人も国王に敬意を表し、この場所で籠を降りたということから別名「かご居せ御門」とも呼ばれています。

復元は平成4年に行われました。

撮影：沖縄総合事務局
島田 成久

Muribushi 11月★12月号 CONTENTS

01 内閣府だより

お知らせ 人事異動

特集

- 02 特集1 農林水産部 県産野菜の消費拡大に向けて
～野菜ソムリエに聞く「ウチナームン」の魅力～
- 06 特集2 経済産業部 ミラサボ開設！
～中小企業・小規模事業者の未来をサポートします～

08 なかゆくい

仕事の窓

- 10 仕事の窓1 総務部 駐留軍用地跡地利用に関する情報交換会を開催
- 12 仕事の窓2 財務部 管内経済情勢報告(平成25年10月)
- 14 仕事の窓3 経済産業部 J-クレジット制度について
- 15 仕事の窓4 開発建設部 那覇空港滑走路増設事業現地着手に向け一歩前進
- 16 仕事の窓5 運輸部 平成25年度ビジット・ジャパン地方連携事業について

局の動き

- 17 農林水産部 「さとうきびのパネル展」及び夏休み子ども学習イベント
「さとうきびの現地学習会」を開催
- 農林水産部 平成25年度 夏休み地下ダム学習会を開催
- 18 農林水産部 「虫で虫を退治する!? 久米島のアリモドキゾウムシ根絶
パネル展」を開催
- 農林水産部 食品中の放射性物質対策に関する説明会を開催
- 19 経済産業部 次世代自動車普及促進説明会の開催
- 経済産業部 「中小企業等施策説明会・大相談会in名護市」を開催
- 20 経済産業部 大宜味村企業支援賃貸工場の落成式
- 経済産業部 沖縄ウェルネス産業の振興
- 21 開発建設部 「BIM/CIMセミナー沖縄2013」について
- 運輸部 平成25年度船員労働安全衛生月間の実施

沖縄の公共施設の ゆんたく紹介

#4

首里城

沖縄総合事務局の公共事業に関する「うんちく」を紹介するコーナーの第4弾は、「首里城」です。首里城は、平成4年の開園から今年で21年を迎え、平成24年度の入園者数は219万人と多数来園していただきました。歴史や文化の拠点として、琉球王国を体験・学習できる沖縄観光の重要な施設です。

正殿が有名ですが、穴場的なお勧め施設を紹介します。それは「西(いり)のアザナ」です。正殿から少し離れた城郭の西側にあるため、県内でも知らない方が多いのではないのでしょうか。そこからは、那覇の街並みなど素晴らしい景観を一望することができます。琉球王朝時代は、城内の漏刻門(表紙写真)等で時刻をはかり、西のアザナ等の各展望台から城外へ鐘を打ち鳴らし知らせたといわれています。

首里城は、現在も復元整備中であり、平成25年度内には、国王の執務中の休憩室である「奥書院」や国王・王妃の居室である「黄金御殿(くがにうどうん)」等を供用する予定です。

秋の行楽シーズンは首里城に出かけて、琉球の歴史・文化に触れてみませんか。



西のアザナ

内閣府だより

山本大臣のフィリピン共和国訪問

平成 25 年 9 月 3 日から 5 日までの間、山本沖縄担当・領土担当大臣はフィリピン共和国を訪問しました。

米海軍スービック基地跡地及び米空軍クラーク基地跡地への訪問では、両地区の政府系機関及び日系企業関係者と意見交換等を行うとともに、港湾・空港施設や工場等の視察を行いました。

また、デル・ロサリオ外務大臣及びガズミン国防大臣との会談においては、領土・主権をめぐる情勢に関する我が国の立場を説明しました。



フィリピン共和国のデル・ロサリオ
外務大臣との懇談



フィリピン共和国のガズミン
国防大臣との懇談



日立ターミナルメカトロニクス・
フィリピン社での記念撮影

プロフィール

【座右の銘】
逆命利君

【趣味】
囲碁、読書、野球

平成 25 年 9 月
内閣府副大臣
(沖縄及び北方対策担当)

平成 17 年 11 月
内閣府大臣政務官

平成 12 年 6 月
衆議院議員初当選

【経歴】
平成 5 年
三菱商事株式会社入社

平成 25 年 9 月 30 日付け
で、沖縄及び北方対策を担
当する内閣府副大臣に、後
藤田正純氏が就任しまし
た。



内閣府副大臣に
ごとうだ まさすみ
氏が就任

【座右の銘】
無私の情熱

【趣味】
スポーツ全般

平成 25 年 9 月
内閣府大臣政務官
(沖縄及び北方対策担当)、
復興大臣政務官

平成 24 年 12 月
内閣府大臣政務官、
復興大臣政務官

平成 17 年 9 月
衆議院議員初当選

【経歴】
平成 3 年 11 月
農林水産大臣秘書

平成 25 年 9 月 30 日付け
で、沖縄及び北方対策を担
当する内閣府大臣政務官
に、亀岡偉民氏が就任しま
した。



内閣府大臣政務官に
かめおか よしたみ
氏が就任

人事異動

■抱負
沖縄本島、離島の
現状を良く見、勉
強し、沖縄農林水
産業の発展のため
現場に即した振興
策に取り組んでい
きたい。

■趣味
最近ではジョギング

■経歴
昭和 61 年
農林水産省入省
農林水産省大臣官
房国際部国際政策
課長を経て現職

■出身
新潟県



こうだ
じゅん
幸田 淳

農林水産省長

お知らせ
information

特集1

農林水産部
Special Edition

県産野菜の消費拡大に向けて 「野菜ソムリエに聞く「ウチナーム」の魅力」

皆さんは、普段野菜を食べる時、購入する時にその野菜が「ウチナーム」（沖縄県産）であることを意識していますか？

沖縄県では、ピーマンやトマト、サヤインゲン等の野菜の生産が盛んであり、また、これらの野菜の他にもいわゆる「島野菜」と呼ばれる他の地域にはあまり見られない独特な野菜が昔から作られてきました。

栽培技術や保存技術の発達で、私たちは多くの野菜を一年を通して買うことができるようになりましたが、旬の野菜は価格も安く、また、栄養価も通常より高いとされています。

そこで今回は、これから旬を迎える県産野菜をより多くの皆さんに食べていただくため、シニア野菜ソムリエの徳元佳代子氏に県産野菜の魅力、そしてその活用方法等についてお話を伺いました。



野菜ソムリエとは どのような資格ですか。

野菜ソムリエとは、端的にいうと野菜や果物の魅力をお伝えする伝道師です。野菜ソムリエには3ランクあり、野菜・果物の魅力や感動を知り、自ら楽しむことができる初級の「ジュニア野菜ソムリエ」、野菜・果物の魅力や感動を周囲に伝えていくことができる中級の「野菜ソムリエ」、野菜・果物を通じて社会で活躍することができる上級の「シニア野菜ソムリエ」に分けられます。

農家の方の思いを食卓までお届けし、食卓の御要望とか消費者の気持ちを農家の方にフィードバックする、というのが野菜ソムリエの仕事です。例えば、「一郎おじいさんが3時に起きて、毎朝きれいな水をかけて育てた野菜なんですよ。」と言った瞬間、

一郎おじいさんの存在、思いが食卓にも伝わるような、そんなイメージをお伝えしたり、また、売り場では分からないような情報、「この野菜は台風の影響に遭ったんですが、生き延びてやっとうったんですよ。」とお伝えすると、買う方も普通の野菜じゃないような気がするかもしれない。そういうストーリーをお伝えすることによって、野菜や果物に関心を持ってくださる人が増えるといいなという気持ちでいます。

また、食卓での家族の声というのはなかなか農家の方には届かない。それを私たち野菜ソムリエがいろいろな場所で料理を教えながら消費者の意見を聞いて、お伝えできればと思います。例えば、農家の方に、「ホテルのシェフはこの時期にこんな野菜が欲しいとおっしゃっていますよ。作れますか。」と話すと、「これまでキャベツだけ作っていたけど、芽キャ

徳元 佳代子 氏 プロフィール

- 平成21年 アンチエイジング予防医学研究会認定
・アンチエイジングセルフケアアドバイザー
・がんの統合医療アドバイザー
- 平成22年 沖縄野菜プロジェクト協同組合理事
- 平成23年 日本野菜ソムリエ協会認定
・シニア野菜ソムリエ（九州・沖縄初）
- 同年10月 起業 Vege Fru Mamma(ベジフルマンマ)代表
- 平成24年 野菜ソムリエコミュニティ沖縄 副代表就任
- 平成25年 日本野菜ソムリエ協会主催
「第2回野菜ソムリエアワード」金賞受賞



ベツも作ると販路は広がるんだね。」
というような返事をもらって、今度
はシェフに、「この農家の方が作れそ
うなので、直接お話ししてみたらど
うですか。」と提案し、そこで取引が
成立する。そういう架け橋の役割を
担っています。



どのようなきっかけで 野菜ソムリエを目指し たのですか。

まず、私自身が農家の嫁で、生産
した農産物に付加価値を付けて販売
するために必要な資格だと思ったか
らです。農家の方は色々な知識をお
持ちですが時間と場がないので、農
業の生産から流通、料理の方法、そ
れから消費者の立場も分かる野菜ソ
ムリエが話すと、ぐっと農産物の魅
力が伝わりやすくなると思いました。

もう一つの大きな理由として、私
自身、がんを患い、将来の心配をし
ながら過ごした時期があったのが
きっかけです。

がんや生活習慣病というのは、毎
日の食生活とライフスタイルが大き
な要因であるということが言われて
いますが、がんを患い、死ぬかもしれ
ないと思ったとき、今までの生活
スタイルや考え方を否定された
ような気がして、これを改善するた
めに野菜ソムリエを目指しました。



どのような活動を されてきたのですか。

沖縄県内の野菜ソムリエが、県産
の野菜や果物の魅力を伝えるため立
ち上げた「沖縄野菜プロジェクト協
同組合」で、理事を務めています。
組合には、野菜ソムリエの資格と併
せて、料理教室の先生、コピーライ
ター、通訳、アナウンサーなどに他
に仕事をしている者が集まっています。
いろいろな職業の方がいますので、
野菜や果物の魅力を多角的に発信し
ています。例えば、通訳だと沖縄の
野菜の魅力を外国人に英語や中国語
で伝えたり、天然酵母パンの先生は
野菜や果物の酵母を使ったパンの魅
力をお伝えしたり、私のように農家

だと一番おいしい野菜の見分け方や
旬の時期の食べ方の提案など、いろ
いろなことをしています。この他に
も、料理教室、講演会の講師や県産
野菜の販売促進などにも取り組んで
います。

また、私自身「ベジフルマンマ」
という会社の代表をしています。こ
の会社では、生産過剰になった場合
や、農家の方が売り先に困っている
場合に、農産物を買入れ、一次
加工、二次加工をして販売し、少し
でも農家の方の収益につなげること
を大きな目的としています。また、農
家の方が加工したジャムなどの加工
品の売り方の提案をしたりもします。



沖縄野菜プロジェクト協同組合の皆様



沖縄県産野菜の魅力とは どういったところですか。

沖縄は、国内で唯一の亜熱帯気候
で、日本本土と比べて紫外線量が3
〜4倍強いのです。

野菜は、紫外線を受けると自分を
守ろうとし、どんどん抗酸化力を高
めるので、自分を修復するパワー(例
えばポリフェノールなど)を蓄えま
す。このようなことから、紫外線が
強い沖縄の野菜は、より抗酸化力が
高いといわれています。

他府県の方は、沖縄の野菜はちょっ
とえぐいとか苦いとか、甘みが少な
いとか言われたりしますが、これが
個性です。例えば、ゴーヤーが市民
権を得たのは、苦くてでこぼこした
珍しい形をしていて、個性が強かつ
たからだと思っています。

また、沖縄で昔から食べられてき
たハンダマ(すいぜんじな)やニガ
ナ(ほそばわだん)、サクナ(ぼたん
ぼうふう)など、「島野菜」と呼ばれ
る野菜には、苦くて、えぐみもあり、
食べにくいものも多いのですが、ずっ
と残ってきたのは、この土地に合っ
た野菜だからです。健康長寿につな
がる秘訣は、そこにあると思います。
甘いものやおいしい野菜は楽しみで
食べていいけれど、体のことを考え
るのであれば地元でとれた野菜を新
鮮なうちに食べることを提案します。

沖縄伝統野菜の一つ
「ハンダマ」



生育中の「ピーマン」

「第2回野菜ソムリエアワード」(日本野菜ソムリエ協会主催)の金賞を受賞されました。

この賞は、シニア野菜ソムリエとしての活動報告を提出し、書類審査を経て自らの活動実績等をプレゼンテーションします。その後、会場の関係者の投票で決定されます。

私が受賞したのは、今までの活動が評価されたからだと思います。国や県、市町村などの関係機関に何度も出向いて、野菜ソムリエが活躍する場の創出に努めてきました。それは、野菜ソムリエが育つことによつ

て沖縄の野菜や果物の魅力をもっともっと複合的に伝えることができるのではないかと考えたからです。

プレゼンテーションの場に立ったとき、「金賞がとれたら、沖縄県の健康長寿の動きと連動した活動に弾みがつく。」と、想いを伝えました。とにかく健康長寿を取り戻したいということと、島野菜のいいところをたくさんお伝えしたいという気持ちが会場の方に伝わったのではないかと思います。

今後の取組や目標について教えてください。

いつかは県外だけじゃなく、沖縄に近いアジアにも島野菜の良さをお伝えできたら、と思っています。アジアの一部の富裕層の方々が、沖縄の野菜はすごく魅力的だと言います。しっかりPRできたら、販路はあるのではないかと思います。

また、「ベジフルマンマ」では、今後、野菜や果物に関心のある人を育てて、「沖縄県の人みんな自分たちの地域の野菜に詳しいんだよ。」と言ってもらえるような島になることを夢見て、野菜ソムリエの教室を当社で行うことを決定しています。ここでは、農業体験、料理も教えながら、私が持つ

ているアンチエイジングや予防医学の知識も含めて、野菜ソムリエとして必要な知識・スキルを全てお伝えしようと思っています。

以前までは野菜ソムリエって何？とよく聞かれましたが、「野菜ソムリエがいると便利だね。」と言われるくらい、しっかりとした地位を確立していきたいと思っています。今後ともよろしくお願いいたします。

「徳元氏のブログ」

<http://vegefumamma.ti-da.net/>

インタビューを終えて。

誌面の都合上、掲載することができませんでしたが、他にも貴重なお話がたくさんありました。

沖縄総合事務局としても、引き続き県産野菜の魅力発信等を通じた消費拡大の取組や、生産農家へのハウス等施設導入の支援により、県産野菜の生産拡大に取り組んでまいります。

なお、島野菜について詳しい情報が知りたい場合は、次のURLを参照してください。

(おきなわ伝統的農産物データベース)
<http://www.okinoci.net/dentou/>

鍋ほか

推進プロジェクト

の御案内

農林水産省では、これから旬を迎える秋冬野菜をおいしく食べていただくため、広く国民の皆様へ向けて、身体も心も暖まる鍋料理を提案する取組を進めています。

鍋料理は、野菜だけでなく他の国産食材の消費拡大・食料自給率向上に資するほか、家族団らん、健康増進、二酸化炭素の排出抑制効果や郷土料理での村おこしなど様々な効用を併せ持つパワフルメニューです。

沖縄県産の野菜をたくさん入れた鍋料理を作って、これからの季節を元気に乗り切りましょう！

詳細はコチラ

<http://syokuryo.jp/season/winter/nabehoka.html>

お鍋で
ほかほか



鍋ほか推進プロジェクト

～これから旬を迎える県産野菜を使ったレシピを教えてくださいました～

ベジフルマンマの島野菜レシピ



パパイヤと牛肉の
細切り炒め

【材料 4人前】

・野菜パパイヤ	200g
・牛肉（7ミリほどの厚み）	200g
・ピーマン（緑・赤）	4個（約120g）
・干しいたけ	2枚
・水溶き片栗粉	適量
・サラダ油	適量（大さじ1～2）

<A> 醤油、酒、ごま油 各小さじ1/2弱
卵1/2個、片栗粉小さじ2

 ・オイスターソース
・砂糖
・酢
・酒

各大さじ1

・醤油 大さじ2弱
・ごま油 少々

県産

○野菜パパイヤ
収穫時期：一年中
ピーク：7月～
12月

○ピーマン
（収穫時期：
11月～翌5月）

作り方

1. 牛肉は厚みが7～8ミリほどの千切りにし、<A>の醤油、酒で下味をつける。
2. 1に卵を加え、よくもんだら、片栗粉を加え軽く混ぜた後、ごま油をまわしかけておく。パパイヤとピーマン、しいたけも牛肉と同じ大きさの千切りにする。
3. フライパンに油大さじ1を熱し、2の牛肉を炒めたら、皿に取り出しておく。
4. フライパンに少量の油を足し、パパイヤ、しいたけを炒め、合わせておいたを加えて香りよく炒める。
5. ピーマンと3の牛肉をもどし入れてさらに炒め、水溶き片栗粉でトロミをつける。最後に、風味づけのためのごま油を少量加える。

※野菜パパイヤがない場合は、タケノコやエリンギで代用できます。

※硬い肉の時は、パパイヤの薄切りを短時間かぶせておくと柔らかくなります。

【材料 2人前】

・ブロッコリー	1株（約250g）
<A>スープ	
・水	1カップ
・顆粒鶏ガラスープの素	小さじ1.5
・酒	大さじ1
・砂糖	少々
・塩	少々

かにあん

・かにカマボコ（カニ缶）	80g	・ねぎ（斜め細切り）	10g
・卵白	1コ分	・水溶き片栗粉	大さじ2
・無糖練乳	大さじ1	・サラダ油	適量
（コーヒーフレッシュでも可）		・塩	少々
・しょうが（細切り）	少々	・ねぎ油（市販）	適宜

県産

○ブロッコリー
（収穫時期：
11月～翌4月）



ブロッコリーの
かに風味あんかけ

作り方

下準備

1. ブロッコリーの茎は固い外皮をむき、食べやすい大きさに切る。蕾の部分は小房に分け、茹でておく。
※ポイント！ ブロッコリー1株に対し、約1カップの水と塩少々を入れ、ふたをして強火で3分蒸し茹でにするとビタミンCが96%も残る。また、大きいまま（半分の大きさ）茹でたあと、カットする方法もうまみが残る。
2. かにカマボコは手でほぐし、卵白は菜箸で泡立てないように混ぜ、練乳を加え混ぜておく。

作り方

1. フライパンにサラダ油を入れ、油がまわったらいったん火を止め、ねぎ、しょうがを加える。香りが出たらAのスープを加える。
2. スープが沸騰したらほぐしておいたかにカマボコを加え、再び沸騰したら卵液を加え味を調えたあと、水溶き片栗粉でとろみをつけ、下準備したブロッコリーにかける。

ミラサポ★開設!

未来の企業★応援サイト

～中小企業・小規模事業者の未来をサポートします～

ミラサポ 未来の企業★応援サイト

<https://www.mirasapo.jp>

中小企業庁では、国や公的機関の支援情報・支援施策や経営の悩み等に対する情報交換の場を提供するサイト「ミラサポ」を開設しました。今回は、その「ミラサポ」について御紹介いたします。

＜ミラサポの3つの特徴＞

【経営者・専門家ニュース】

経営の悩みに対する、専門家や先輩経営者による生きたアドバイスが毎日更新され、コラム形式で見ることができます。

【施策情報】

国や公的機関の支援情報や支援施策を提供します。

【コミュニティ】

地域ごと、あるいはテーマごとのコミュニティをつくり、同じ目的や悩みについて交流することができます。

1.「経営者・専門家ニュース」画面では、経営の悩みに対する専門家のアドバイスなどの情報を知ることができます！



最近掲載されたコラム

- ・期待が成果をもたらす...『ピグマリオン効果』とは？
- ・いまどきの就業規則はどうあるべきか？
- ・社名で失敗しないためのポイントとは？

コラムの内容を御覧になりたい方は「ミラサポ」へ会員登録（無料）すると御覧になることができます。

2.「施策情報」画面では、カテゴリー別、施策別の情報を知ることができます！

最新の補助金情報が分かります。

地域を絞った補助金情報が分かります。

関心の高い補助金が分かります。

3.「コミュニティ」を活用して、同じ目的や悩みについて交流することができます！

沖縄県グループに240名余りが登録しています。

ミラサポでは、同じ目的や課題・悩みを持つ経営者やその分野の専門家が、地域ごとあるいはテーマごとのコミュニティを作ることができます。

さまざまな公開グループでは参加することも、見ることもできます。

また、非公開グループをつくれば、専用のビジネスコミュニティとして使うこともできます。

現在、47都道府県ごとグループ、地域(地方自治体)グループ、専門家よろず相談等々のコミュニティが立ち上がっており、沖縄グループページも立ち上がってます。

ミラサポへ会員登録するとコミュニティを見ることも参加することもできます。

主なグループ例

●専門家へのよろず相談

起業や経営についての悩みについて投稿すると、各分野の専門家や同じ悩みを抱えていた経営者の皆様から回答やアドバイスをもらうことができます。

●女性経営者グループ

主に女性経営者が日々の仕事の話や実践していること、女性経営者ならではの悩みや苦労などを共有しています。

●地域活性化〈食品グループ〉

素材はあるものの、どう活用したらよいか分からない地産地消の情報の共有・情報交換をしています。

ミラサポに関するお問い合わせ 沖縄総合事務局中小企業課 TEL 098-866-1755

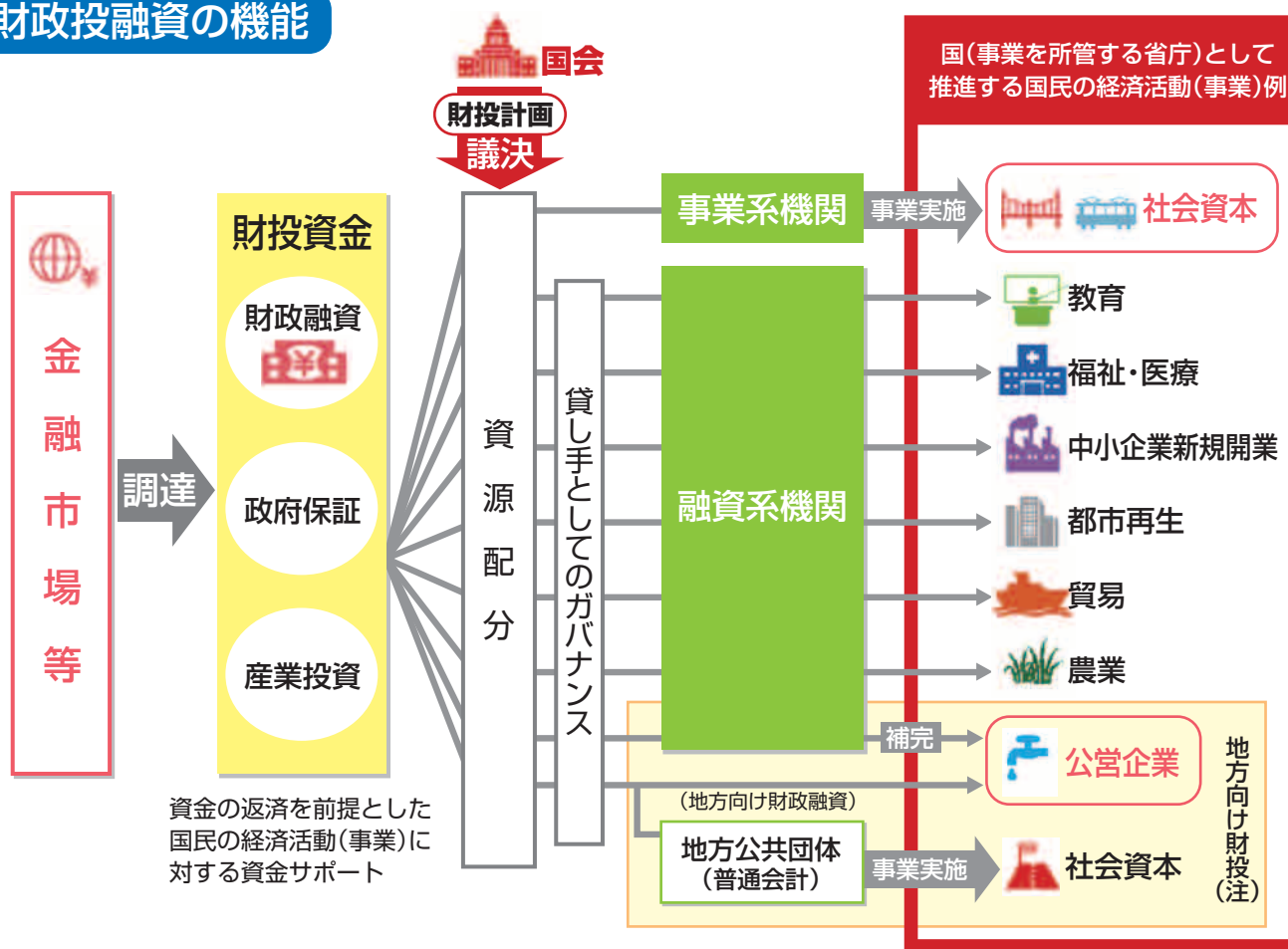
財政融資 【財政投融資制度】とは

地方公共団体に対する財政融資とは、財政投融資の資金供給の手法の一つであり、財投機関の1つである地方公共団体に財政融資資金を貸し付けること（融資）です。

財政融資は、国の信用に基づき、最も有利な条件で調達された財政融資資金を原資としているため、民間金融機関では融資が困難な、長期・固定・低利での資金供給が可能という特徴があります。

財務部では、上記の財政融資を行うほか、財務状況把握において、地方公共団体の債務償還能力及び資金繰り状況を把握しています。その結果の概要を「診断表」としてヒアリングを実施した地方公共団体に情報提供するとともに、一定以上に財政状況が悪化した地方公共団体に対しては、融資審査を厳格化するなど地方財政の健全化に努めています。

財政投融資の機能



(注)地方公共団体がやっている経済活動(＝国として支援するに相応しい活動)に着目して支援しています。

財政融資資金に関する問い合わせ

沖縄総合事務局 財務部理財課

電話: 098-866-0092 (直通)

ホームページ: <http://www.ogb.go.jp/zaimu/index.html>

沖縄での身近な活用例

新石垣空港（石垣市）



総事業費451億円（うち財政融資資金34億円）
平成24年度完成

県立宮古病院（宮古島市）



総事業費67億円（うち財政融資資金40億円）
平成24年度完成

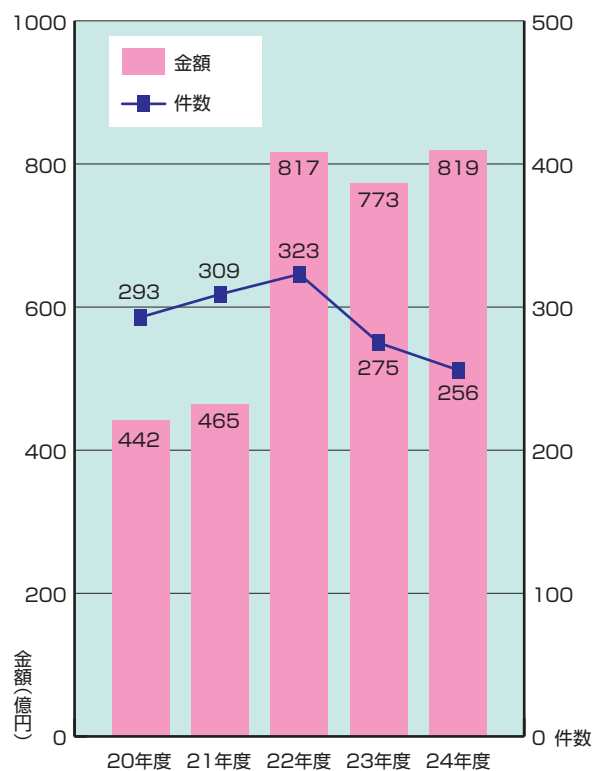
フェリーいえしま（伊江村）



総事業費16億円（うち財政融資資金3億円）
平成23年度完成

下図にもあるように、沖縄総合事務局において地方公共団体に貸付している財政融資資金は、最近5年間の推移で見ても漸増傾向にあります。身近な活用例として、石垣市の新石垣空港、宮古島市の県立宮古病院と伊江村のフェリーいえしまを掲載しました。

財政融資資金地方資金貸付金の推移



総務部

駐留軍用地跡地利用に関する 情報交換会を開催

Point

今後の返還跡地の有効活用を考える上で参考となる「沖縄県における6次産業化の取組」や「アワセゴルフ場跡地の取組」に関する情報提供を、跡地関係市町村担当者等に対して行いました。

情報交換会の開催趣旨

返還される駐留軍用地の跡地は、地域にとって新たに生まれた利用可能な空間となることから、跡地の迅速かつ効果的な利用を進め、当該地域ひいては沖縄全体の振興につなげていく必要があります。このため、総務部跡地利用対策課では、沖縄県及び関係市町村と密接に連携しつつ、駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用の推進に向け取り組んでいます。

取組の一つとして、SACOの最終報告等で返還が合意された駐留軍用地又は跡地の利用実現に向けて主体的な取組を行って市町村に対し、適切な支援を行うことを目的とした駐留軍用地跡地利用に関する市町村支援事業を実施しており、その事業の一つが情報交換会です。

情報交換会では、各市町村担当者のスキ

ルアップを支援することを目的に、専門家による講演やテーマに沿った意見交換等を行っています。

平成25年度 第1回情報交換会を開催

情報交換会は年2回開催しておりますが、今年度は去る9月12日（木）、那覇第二地方合同庁舎にて開催しました。当日は、沖縄県や県内11市町村の基地跡地担当者が参加しました。

情報交換会では、まず初めに、農業生産法人株式会社「あいあいファーム」経営企画室長の加力謙一氏から、返還跡地について、農業的土地利用計画を策定する際の参考としてもらうため、「沖縄県内における6次産業化の事例について」と題して御講演をいただきました。



加力 謙一 氏

「あいあいファーム」は、沖縄県内で飲食業を中心に事業展開をしており、近年は農業生産から加工・販売までを手がける6次産業分野へ事業内容を広げています。加力氏は、同社の企画担当として事業の中心的な役割を担っています。



高嶺 晃 氏

加力氏からは、オランダとアメリカの進化する農業のケースを映像を交えながら紹介していただきました。特に、国土面積が日本の50分の1、農業人口は日本の7分の1ながら、世界第2位の農産物輸出国オランダの植物工場に代表される自動化された農業技術については、沖縄も学ぶ面があることが指摘されました。

また、島野菜や以前に生産の盛んだった大豆等の生産振興を図り、これらの地域資源を有効活用して観光産業との連携を図り、6次産業化を実現していく中で、付加価値の高い商品を開発し、農産物加工業を海外輸出産業に育てるといふ農村農業への御提案等がありました。

続いて、高嶺晃氏から、「アワセゴルフ場跡地におけるプロジェクト・マネージャの取組について」と題して、情報提供を行っていただきました。当局では、「市町村支援事業」の一環として、市町村からの要望を受けてプロジェクト・マネージャの派遣を行って

います。高嶺氏はこのプロジェクト・マネージャとして、主にキャンブ瑞慶覧アワセゴルフ場地区の返還跡地利用の支援を目的に北中城村へ派遣され、土地区画整理組合の認可までの様々な課題に対して、関係機関との調整等を行ってこられました。

那覇市役所の元都市計画部長という御自身の経験に基づき、「小禄・金城地区」や「那覇新都心地区」の土地区画整理事業とアワセ土地区画整理事業を比較しながら、返還地域の歴史や文化の検証等により返還地の性格を見極めること、「沖縄21世紀ビジョン基本計画」や市町村総合計画等の上位計画と跡地利用計画の整合

性、減歩率に対する地権者調整等について、お話ししていただきました。当局は、今後も引き続き、関係市町村等と密接な連携の下、駐留軍用地跡地の利用の推進に向けて取り組んでまいります。



会場の様子

跡地利用対策課では、沖縄県及び跡地関係市町村と密接に連携を取りながら、駐留軍用地跡地の有効かつ適切な利用の推進に向けて主体的な取組を行っている市町村に対して、様々な支援を行っています。

市町村支援事業等の概要等については、当課ホームページ「跡地利用の推進」に掲載しています。

<http://atochi.ogb.go.jp>

財務部

【総括判断】

項 目	25年4-6月期	25年7-9月期	前回との比較	足下の動き
総括判断	緩やかに回復している	回復している	↑	観光関連企業を中心に台風による影響を懸念する声が聞かれるものの、好調な旅行需要等を背景に、引き続き景況感について明るい声が聞かれているなど、回復基調が続いている。

【各項目の判断】

項 目	25 年 4-6 月 期	25 年 7-9 月 期	前回との比較
個人消費	緩やかに回復しつつある	緩やかに回復している	↑
観 光	緩やかに回復している	回復している	↑
雇用情勢	緩やかに持ち直している	持ち直している	↑
住宅建設	前年を上回っている	前年を上回っている	→
設備投資	前年度を下回る見通し	前年度を下回る見通し	→
公共事業	前年を上回っている	前年を上回っている	→
生産活動	緩やかに持ち直している	緩やかに持ち直しているものの、一部に弱い動きがみられる	↓
企業収益	減益見通し	減益見通し	→
企業の景況感	現状判断は「上昇」超幅が縮小している	現状判断は「上昇」超幅が拡大している	→

Point

〈足下の動き〉
観光関連企業を中心に台風による影響を懸念する声が聞かれるものの、好調な旅行需要等を背景に、引き続き景況感について明るい声が聞かれているなど、回復基調が続いている。
〈先行き〉
沖縄振興策等を背景として景気が回復しているなかで、海外景気の下振れリスクや原材料価格の動向などについて、引き続き注視していく必要がある。

管内経済情勢報告（平成25年10月）
管内経済は、回復している

【主要項目の動向】

個人消費 [緩やかに回復している]

大型小売店販売額は、気温が高かったことを背景に、夏物衣料品や冷感寝具などが好調であったほか、新規出店効果もあって前年を上回っている。

コンビニエンスストア販売額は、清涼飲料やアイスクリームなどの夏物商品に動きがみられたほか、新規出店効果や挽きたてコーヒー販売の展開による来店客数の増加などから前年を上回っている。

新車販売台数は、軽自動車の新型車効果などから前年を上回っている。

中古車販売台数は、販売促進効果から前年を上回っている。

家電販売額は、エアコンなどの季節商品が好調であったほか、薄型テレビに改善の動きがみられたことなどから前年を上回っている。

このように、個人消費は緩やかに回復している。

観光 [回復している]

入域観光客数は、国内客がLCC路線の増加や新石垣空港への新規就航などから増加し、外国客が航空路線の拡充などにより増加したことなどから前年を上回り、7ヶ月連続で単月の過去最高を記録している。

ホテルの客室単価は前年を下回っているものの、リゾート型ホテルで前年を上回っている。客室稼働率は前年を上回っている。

このように、観光は回復している。

雇用情勢 [持ち直している]

新規求人数は、宿泊業・飲食サービス業、卸売業・小売業など多くの業種で前年を上回っており、新規求職者数は前年を下回っていることなどから、有効求人倍率（季節調整値）は引き続き上昇している。

このように、雇用情勢は持ち直している。

【その他の項目の動向】

住宅建設

新設住宅着工戸数は、持家、貸家、分譲とも前年を上回っており、全体でも前年を上回っている。

設備投資

法人企業景気予測調査（25年7～9月期）でみると、全産業では前年度を17.2%下回る見通し（除く、石油・石炭、電気・ガス・水道では6.9%下回る見通し）となっている。

公共事業

公共工事前払金保証請負額（25年4～9月累計）は、前年を上回っている。

生産活動

食料品は、食肉加工品や酒類の一部が前年を上回っており、全体では前年並みとなっている。窯業・土石では、好調な公共・民間工事を背景として生コンやセメントの出荷が前年を上回っているほか、金属製品も前年を上回っている。石油製品は前年を下回っている。

このように、生産活動は緩やかに持ち直しているものの、一部に弱い動きがみられる。

企業収益

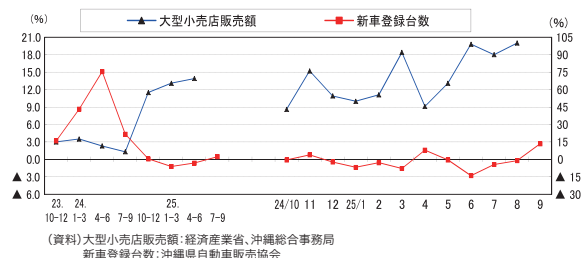
法人企業景気予測調査（25年7～9月期）でみると、25年度上期は、全産業で3.1%の増益見込みとなっている。25年度下期は、全産業で16.0%の減益見通しとなっている。25年度通期は、全産業で6.2%の減益見通しとなっている。

企業の景況感

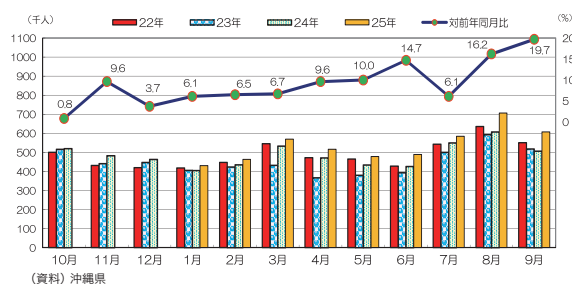
法人企業景気予測調査（25年7～9月期）でみると、製造業では、「上昇」、「下降」とともに企業数に変化がなく「上昇」超幅が横ばいとなっている。非製造業では、建設、サービスで「上昇」とする企業が増加していることなどから「上昇」超幅が拡大している。

この結果、全産業では、「上昇」超幅が拡大している。

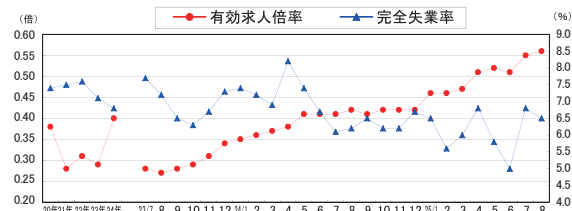
○大型小売店販売額、新車登録台数（前年比）



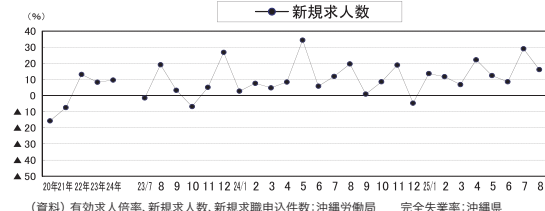
○入域観光客数（前年比）



○有効求人倍率及び完全失業率



○新規求人数（前年比）



経済産業部

J-クレジット制度について

Point

設備投資や森林管理で環境価値の創造を！

1. J-クレジットとは

京都議定書の公約期間である2012年度末で一旦終了した「国内クレジット制度」(経済産業省・環境省・農林水産省)と「オフセット・クレジット制度」(環境省)の優れた点を取り入れ発展的に統合し、2013年度から「J-クレジット制度」(正式名称・国内における地域温暖化対策のための排出削減・吸収量認証制度)としてスタートしました。

本制度では、プロジェクト実施者が行う排出削減事業(高効率設備への更新や再生可能エネルギーの導入等)や森林管理による吸収事業(間伐や植林活動等)の温室効果ガスの排出削減量や吸収量をクレジット(排出権)化して売買することができま

す。クレジットの創出者は、それを売却することによりランニングコストの低減などのメリットがあり、また、クレジットを取得(購入)した大企業等は、低炭素社会実行計画の目標達成などに活用できます。

クレジットは、国が認証しており①プロジェクトの登録、②モニタリングの二つのステップがあります。

2. 当局の取組

当局では、「J-クレジット制度ソフト支援事業」を一般財団法人沖

縄県環境科学センターに委託しています。

同事業では、J-クレジット制度の活用が期待される中小商工業者、農林業者、地方自治体、事業者等を対象に①J-クレジットプロジェクト登録のためのプロジェクト計画作成支援、②モニタリング報告支援をそれぞれ無償で実施しています。

また、J-クレジット活用企業等への周知や地産地消的な幅広いカーボン・オフセットニーズを開拓するため、沖縄地域の行政・企業・各種団体等を構成員とする「沖縄地域J-クレジット制度推進ネットワーク会議」を開催しています。

3. クレジット認証及びカーボン・オフセットの事例

J-クレジット認証に向けては、現在活用先を発掘中です。

昨年度までの国内クレジットとして認証された代表事例は次のとおりです。

- ・ホテルにおける高効率ヒートポンプの導入(CO₂削減 243ト/年)
- ・ボウリング場における照明設備の更新(CO₂削減 124ト/年)
- ・今年度のカーボン・オフセットの代表事例は、次のとおりです。
- ・全日本トライアスロン宮古島大会(CO₂ 166トオフセット)

J-クレジット制度の仕組み



・沖縄の産業まつり(CO₂ 7トオフセット)
なお、当局においても、本誌「群星」(年6回発行)の印刷・製本過程で排出されるCO₂ 10トをオフセットしました。

新たな沖縄振興計画がスタートし、国際物流や観光産業など経済活動の活性化により沖縄の発展が期待される一方で、CO₂排出の増加が懸念されています。低炭素社会沖縄を実現するために、多くの企業等に「J-クレジット制度」の御活用をお願いします。

J-クレジット制度
ソフト支援機関(委託)

一般財団法人
沖縄県環境科学センター
HP <http://www.okikanka.or.jp>
TEL 098-875-5208(直通)

お問い合わせ先

沖縄総合事務局経済産業部
エネルギー対策課
TEL 098-866-1759(直通)



開発建設部

Point

那覇空港滑走路増設事業に係る環境影響評価書の公告・縦覧及び公有水面埋立承認申請の出願を行いました。

那覇空港滑走路増設事業現地着手に向け一歩前進

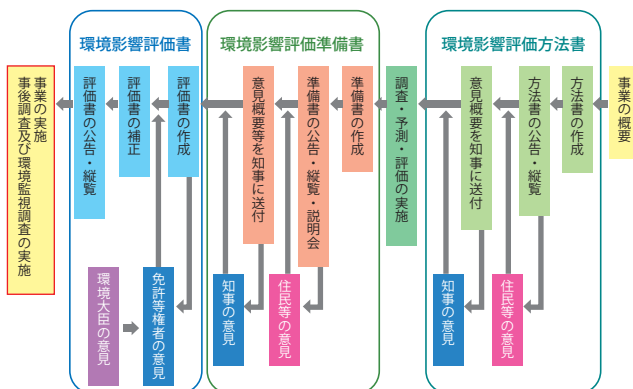
環境影響評価書について

那覇空港滑走路増設事業は、平成15年度からPII（パブリックインボルグメント）の手法を活用し、県民等の皆様に對し情報を提供するとともに、その意見を把握しながら計画を検討してきました。また、平成22年度からは環境影響評価の手続を開始し、平成22年8月には環境影響評価方法書、平成24年9月には環境影響評価準備書を作成しました。また、平成25年6月に環境影響評価書を作成し、免許等権者である国土交通大臣、沖縄県知事及び那覇港管理組合管理者に送付しました。同年8月に同評価書に対する意見が提出され、これを踏まえて同評価書の補正を行い、平成25年9月19日に免許等権者に対し補正後の環境影響評価書を送付するとともに、9月20日から10月21日まで公告・縦覧を行いました。



環境影響評価書の公告・縦覧

環境影響評価手続の流れ



準備書から評価書への変更点について

- 工期短縮に伴う環境影響について見直しました。
- 連絡誘導路の通水路部の構造決定について十分な説明を追記しました。
- サンゴ類やクビレミドリロの移植計画を追記しました。

「サンゴ類移植の事例」

ダイバーがタガネやハンマー等を用いて移植元のサンゴ類を採取後、輸送用カゴで牽引か船上容器に収容して移植先へ運搬し、水中ボンド等で固定します。



移植元のサンゴ類



移植作業の様子

○カサノリ類や海藻藻類の順応的管理の方針について追記しました。

○事業実施に当たり、環境監視委員会（仮称）を設置して、移植や順応的管理等の実施計画について、専門家の助言を得つつ実施していくこと等を追記しました。

なお、環境影響評価書の詳細はホームページを御覧ください。
那覇空港プロジェクト室 HP：
<http://www.dc.ogb.go.jp/Kyoku/information/nahakukou/index.htm>

公有水面埋立申請願書の提出について

平成25年9月20日に同事業に係る公有水面埋立申請願書について、沖縄県知事及び那覇港管理組合管理者へ提出しました。



公有水面埋立申請願書の提出

最後に

航空以外的高速輸送手段を持たない島嶼県沖縄にとって、那覇空港の重要度は極めて高く、将来の航空需要に適切に対応するとともに、観光立県沖縄の持続的発展に寄与し、将来にわたり国内外ネットワークにおける拠点性を発揮し得るよう本事業を推進していく必要があります。

これまでの取組により一連の環境影響評価の手続が完了し、現在、公有水面埋立等の諸手続を踏まえ、平成26年1月の着工に向け鋭意準備を進めています。

運 輸 部

Point

外国人観光客の誘客のための施策を展開しています。

平成25年度ビジット・ジャパン 地方連携事業について

我が国では、官民一体となつて海外からの誘客を促進しており、本年においては1,000万人の目標を掲げ、外国人訪日旅行促進事業（ビジット・ジャパン事業）を強力に展開しています。

沖縄総合事務局においては、ビジット・ジャパン事業の重点市場に対して、海外旅行博覧会への出展、メディアやクルーズ船社キーパーソンの招請、商談会やセミナーの実施等を通じて、沖縄への外国人観光客の誘客を積極的に実施しています。

今回は、今年度のビジット・ジャパン事業の中で実施したクルーズ船寄港誘致強化事業について御紹介いたします。

2012年における沖縄へのクルーズ

※重点市場（14市場）…台湾、香港、中国、韓国、シンガポール、タイ、アメリカ、ドイツ、フランス、オーストラリア、イギリス、カナダ、マレーシア、インドネシア

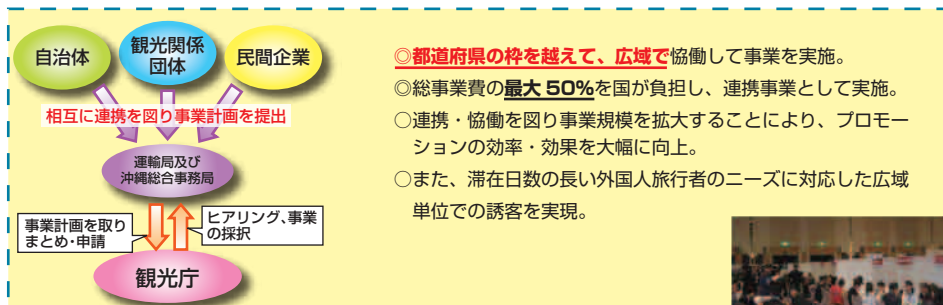
船の寄港回数は125回に上っており、2014年3月には、那覇港（泊ふ頭地区）クルーズ船専用バースに旅客船ターミナルが完成予定となっていることなど、受入環境の更なる改善が進むことから、今後更に寄港回数が増加することにより、外国人観光客数も増加することが期待されています。

そこで、（財）沖縄観光コンベンションビューローとの連携事業として、本年9月1日から7日にかけて、アメリカのクルーズ船社であるシルバーク・クルーズ社のダリウス・メタ副社長を招聘し、沖縄本島のほか、石垣島、西表島、竹富島、宮古島を視察していただき、クルーズ船寄港の適地としての沖縄の魅力をもPRしました。

今後とも外国人観光客の更なる増加につなげるべく、ビジット・ジャパン地方連携事業により、沖縄観光の魅力を発信するための効果的なプロモーションを実施していきます。

ビジット・ジャパン地方連携事業について

- 都道府県の枠を越えて、自治体等間で広域で取り組む訪日プロモーションについて、国と地方で連携事業を実施。
- 訪問地の多様化を図り、増加するリピーター需要へ対応するとともに、インバウンドに取り組む自治体間の連携を促し、滞在日数の長い外国人旅行者のニーズに即した誘客を実現。



【事業内容】

- 日本向け旅行商品造成のための旅行会社関係者等の招請
- 海外の旅行博への出展
- 海外の新聞・雑誌等への広告掲載
- 海外向け情報発信のためのメディア関係者等の招請
- 外国人観光客向けパンフレット作成
- 訪日教育旅行促進のための教育関係者等の招請 等



由布島視察



平良港視察

農林水産部

「さとうきびのパネル展」及び夏休み子ども学習イベント「さとうきびの現地学習会」を開催

農林水産部では、8月13日（火）から15日（木）までの3日間、「沖縄の宝 さとうきびの栽培から砂糖ができるまで」と題したパネル展を開催しました。さとうきびや砂糖などのパネルのほか、DVD上映、さとうきびポット栽培苗、様々な砂糖のサンプル展

示、黒糖の試食等を行いました。入場者数は、3日間で120人でした。

また、8月14日（水）には、小学生を対象とした現地学習会を開催し、さとうきびの植付け体験、収穫機械（ハーベスタ）の試乗体験、製糖工場の見学等を行いました。イベント参加者

は32人でうち小学生が25人でした。

当イベントをきっかけに、多くの方々が、沖縄の基幹作物であるさとうきびと砂糖について興味を持ち、今後一層理解を深めてもらえることを期待しています。



パネル展の様子



さとうきび植付け体験



収穫機械（ハーベスタ）

農林水産部

平成25年度夏休み地下ダム学習会を開催

農林水産部では、夏休み期間中に小中学生が地下ダムの仕組みを学ぶ「地下ダム学習会」を各地区で開催しました。

学習会では、観測施設の中に入って、地下水をせき止める地下ダム止水壁に触れたり、ファームポンドに上って汲み上げた地下水をのぞいてみたりなど、実際の地下ダム施設を訪れ、子供たちか

らは、「地下ダムの仕組みがよく分かった。」「いつも食べている野菜には水が必要だと分かった。」「地下水を汚さないようにしたい。」などの感想がありました。

農林水産部では、引き続き農業農村

整備事業への御理解を深めていただく取組を行っています。

各地区の様子



伊江地区



宮古伊良部地区



沖縄本島南部地区



沖縄本島南部地区

各地区の参加者数

実施地区	実施日	参加者
伊江地区（伊江村）	平成25年8月22日（木）	15人
沖縄本島南部地区（糸満市、八重瀬町）	平成25年7月31日（水）	31人
	8月1日（木）	51人
	8月2日（金）	36人
宮古伊良部地区（宮古島市）	平成25年7月26日（金）	22人
	8月6日（火）	24人
	8月13日（火）	9人
参加者合計		188人

農林水産部

「虫で虫を退治する!? 久米島のアリモドキゾウムシ根絶パネル展」を開催

平成25年4月に、久米島から、かんしょに大きな被害を与える害虫であるアリモドキゾウムシが根絶されました。沖縄総合事務局では、世界初の快挙である同虫の（不妊虫放飼法による）根絶達成について、県民の皆様方に広く知っていただくとともに、農業における病害虫防除の重要性について理解を深めていただくため、8月20日（火）から23日（金）までパネル展を開催しました。

また、本パネル展に関連し、小学生を対象とした夏休み子供学習イベントとして、虫の専門家による農作物の害虫についてのミニ講座を8月22日（木）に開催しました。この講座では、沖縄県の担当者から「虫で虫を退治する、久米島のアリモドキゾウムシ根絶防除」について、農林水産省那覇植物防疫事務所の担当者から「植物検疫ってなんだろう？」について説明し、参加者の方々に

は説明を聞くだけでなく虫の観察等も行っていました。参加した子供たちからは、「面白かった。」「また来たい。」との声が聞かれるなど、大変好評でした。



パネル展の様子



パネル展の様子



ミニ講座の様子



子供たちによる虫の観察の様子

農林水産部

食品中の放射性物質対策に関する説明会を開催

国では、福島第一原子力発電所の事故を受け、関係府省庁が連携し、全国各地で説明会等を開催し、食品中の放射性物質対策に関する情報提供を行っています。

その一環として、内閣府食品安全委員会、消費者庁、厚生労働省、農林水産省及び沖縄総合事務局が主催して、食品中の放射性物質の基準値や放射性物質による健康への影響、国や地方自治体が実施する検査の方法、農林水産業の現場での対応などについて理解を深めていただくことを目的に、9月10日（火）に那覇第2地方合同庁舎において説明会を開催しました。

説明会では、まず内閣府食品安全委員会事務局から、放射線とは何か、放射性物質を摂取した場合の人体への影響、リスク評価とリスク管理に係る関係省庁の取組、食品中の放射性物質による健康影響等について説明を行いました。

続いて厚生労働省医薬食品局から、基準値の年間1ミリシーベルトの根拠、基準値を上回った場合の対応など食品中の放射性物質の対策と現状について説明を行いました。この中では、一般食品の基準値100ベクレル/kgは国際機関（コーデックス委員会）の指標である年間1ミリシーベルトに基づく厳しい基準であるとともに、品目ごとの放射性物質の検査結果でも、現在、基準値を超える品目はごく僅かであり、基準値を超えた農産物は出荷・流通されないことから、過度に心配する必要はない旨の説明がありました。

その後農林水産省生産局から、農産物の放射性物質の低減対策や収穫後の放射性物質検査体制など農林水産業の現場における対応について説明しました。

最後の参加者との意見交換では、多くの方から活発な発言があり、「国の基準値はベラルーシに比べて高いのではな

いか。」「原発からの汚染水漏れによる水産物への影響と対策はどうか。」「低レベル放射線による内部被ばくでの人体への影響が心配。」など貴重な御意見・御要望をいただきました。

食品中の放射性物質についての県民の関心は高く、説明会には、一般消費者の方々を始め、食品製造事業者、市町村衛生担当者など会場がほぼ満員となる約100名の参加がありました。



説明会の様子

経済産業部

次世代自動車普及促進説明会の開催



8月23日（金）、那覇第2地方合同庁舎1号館において、当局及び一般社団法人次世代自動車振興センター主催による「次世代自動車の普及支援に係る補助金の公募説明会」を開催しました。次世代自動車等の関心は高く、県内企

業、地方自治体等から約105名の方々が参加されました。

本説明会は、地球温暖化対策やエネルギーセキュリティの確保、また、我が国の自動車産業の競争力強化のために経済産業省が創設した「クリーンエネル

ギー自動車等導入補助金」及び「充電インフラ整備促進事業補助金」の周知を図り、同補助金の利用促進のため開催しました。

併せて、「充電インフラ整備促進事業補助金」において、高率補助の適用要件となる「沖縄県次世代自動車充電インフラ整備ビジョン」（沖縄県策定）についても説明されました。

今後の沖縄管内の次世代自動車等の普及促進が期待されます。

【補助金の概要】

※詳細は一般社団法人次世代自動車進行センターHPの「補助金情報」を御確認ください。

●クリーンエネルギー自動車等導入費補助制度

補助対象者：地方自治体、法人、個人（但し独立行政法人は対象外）
補助対象車両：電気自動車、プラグインハイブリッド自動車、
クリーンディーゼル自動車
※車両メーカー、輸入業者等からの申請に基づき事前に
審査・承認された車両
募集締切：平成26年3月7日（必着）

●次世代自動車充電インフラ整備促進事業

補助対象：充電器の購入費や設置工事費
申請受付期間：平成26年2月28日（予定）

【お問い合わせ・補助金申請先】

一般社団法人
次世代自動車振興センター
http://www.cev-pc.or.jp/hojo/hosei_index.html
TEL: 03-5501-4412

経済産業部

「中小企業等施策説明会・大相談会in名護市」を開催



9月26日（木）、名護市民会館中ホールにおいて、沖縄県北部の中小企業者等に対して、中小企業等の課題に対する支援施策や相談窓口を知っていただくために、内閣府沖縄総合事務局経済産業部及び名護市が主催し、関係機関の協力による「中小企業等施策説明会・大相談会in名護市」を開催しました。北部の中小企業者約40名の参加があり、第1部では中小企業施策説明のほか、今帰仁村で農業の6次産業化の推進を行っている農業生産法人株式会社あいあいファーム 経営企画室長 加力 謙一氏から、補助金を活用した事例発表として、外食産業から農業へ参入した経緯や商品開発後の品質表示等の課題を解決する際に活用した支援制度や研究開発などが紹介されました。

また、第2部の大相談会では、経済産業部のほか、中小企業をサポートして

いる7つの支援機関にも御協力いただき、15のブースを設け、「創業・資金調達」、「人材・雇用」、「研究開発・技術革新」、「貿易・海外進出」など30件の相談に対応しました。

相談会に参加した企業からは、「多岐にわたる中小企業支援策があることが知れて良かった。」という意見や「支援サイトなども活用し情報収集を行っていきたい。」などの感想がありました。

今後、12月2日（月）に石垣、翌日3日（火）に宮古でも開催します。

御協力いただいた相談会参加機関

- ・沖縄労働局
- ・沖縄県商工労働部
- ・沖縄振興開発金融公庫
- ・沖縄県信用保証協会
- ・（独）中小企業基盤整備機構沖縄事務所
- ・（公財）沖縄県産業振興公社
- ・沖縄県経営改善支援センター



第1部 施策説明



第2部 相談会の様子

経済産業部

大宜味村企業支援賃貸工場の落成式

8月30日(金)、大宜味村の「結の浜」(塩屋湾外海埋立地)に建設された大宜味村企業支援施設の落成式が行われました。

結の浜は、大保ダム建設工事に伴う残土を活用して埋め立てた「結の浜土地利用計画」により、村役場庁舎、学校、総合運動公園などの建設が予定されており、大宜味村の中心拠点地区となっています。

同地区に整備された企業支援施設は、平成23年度沖縄北部活性化特別振興事業費を活用し、大宜味村の資源である「ミネラル豊富な湧き水」を活用した産業創出を目的として整備した鉄骨造平屋2棟の賃貸工場です。

大宜味村ではこの湧き水を同施設に安定供給するために、企業支援施設の整備と併せて沖縄県内で2番目となる工

業用水道事業を行っています。

式典で島袋大宜味村長は、「賃貸工場は、北部地域の産業振興の拠点施設として雇用の創出や永住人口の拡大につながる。」と式辞を述べられ、また、来賓として出席した竹井沖縄総合事務局次長は、祝辞で「賃貸工場の稼働による新規産業の創出は、やんばる全体の活性化につながるもの。」と期待を述べ

ました。

なお、同施設には大宜味のミネラルウォーターを環境配慮型のペットボトルで販売する株式会社ブルーオーシャンズ、豆苗(とうみょう)を生産・販売する株式会社沖縄村上農園、化学肥料不使用の島野菜、ハーブ等の生産・販売を行う株式会社おおぎみファームの3社が入居しています。



テープカット風景



賃貸工場全景

経済産業部

沖縄ウェルネス産業の振興 (~平成25年度万国医療津梁協議会総会の開催~)

沖縄は、国内唯一の亜熱帯性気候で、珊瑚礁の海、豊富な植物、独特の歴史、文化や音楽、おもてなしの心、癒しの空間など、多様な地域資源を有しています。

このような他地域と異なる環境を持ち、ホスピタリティが高く、癒しと魅力が豊富な沖縄においては、リハビリ、エステ・スパ、医療ツーリズムなどの健康関連サービスや医工連携の取組などを包含した「沖縄ウェルネス産業」のポテンシャルは高いと考え、沖縄総合事務局経済産業部では、「万国医療津梁協議会」と共に、当該産業の振興を図っています。

万国医療津梁協議会は、産・医・学・官のネットワーク構築により、沖縄における国際医療交流を推進するとともに、沖縄地域における経済の活性化及び観光の高度化・多様化を目指して、平成

23年6月に設立された協議会です。

今回は、その取組について紹介します。去る9月9日(月)、那覇市にて平成25年度万国医療津梁協議会の総会が行われました。

総会では、本協議会の新役員を選出するとともに、年間活動計画が会員の皆様に提案されました。また、琉球大学外間登美子理事・副学長から、「琉球大学における国際貢献と人材育成」と題して講演が行われました。医療関係者、旅行関係者など約60人が参加し、活発な意見交換が行われるなど、沖縄ウェルネス産業への関心の高さが伺えました。

当部としては、本年度、当協議会と連携して、医療関係学会などMICEの誘致や医療ツーリズムの新たな市場開拓などに取り組んでまいります。



来賓挨拶(能登靖 内閣府沖縄総合事務局経済産業部長)



講演(外間登美子 琉球大学理事・副学長)

開発建設部

「BIM／CIMセミナー沖縄2013」について



9月20日（金）に、BIM/CIMの更なる普及を促進するため、昨年に引き続き「BIM/CIMセミナー沖縄2013」が公共建築協会の主催により開催されました。170名強の参加があり、関心が強まっていることがひしひしと感じられました。

基調講演では、BIMのパイオニアであり、BIMを活用した設計で多数の受賞を果たされている株式会社日建設計の山梨和彦氏から、BIMの先進的な導入事例や設計体制の変化、将来の目標などが紹介されました。次に、沖縄科学技術大学院大学の日高靖晃氏から、沖縄初のBIM本格導入事例である大学新営工事にて、維持管理段階の将来を見据えて効率的に設備配管や配線を配置できたことが紹介されました。後半では、パネルディスカッションとして、沖縄県建築士事務所協会副会長の野原氏

をコーディネーターに、琉球大学の堤教授、当局の大槻営繕課長を含めた5名のパネリストがBIM/CIM導入に関するノウハウや経験を語り合いました。「BIMは小規模な設計事務所にも導入メリットが大きい。」「最初からフルスペックのBIM/CIMを目指すことなく段階を踏んで導入していけばよい。」という発言があり、参加者も導入する意欲が沸いてきたことと思います。



基調講演 株式会社日建設計
山梨和彦氏



BIMデモ操作体験

※BIMとは、3次元で設計したモデルに様々な情報を持たせる設計手法であり、設計から、施工、維持管理まであらゆる工程で幅広くかつ効率的に活用できるため、今後の普及が期待されています。国土交通省官庁営繕部では、平成22年にBIMの試行を始め、平成24年に土木分野においてもCIMの試行を開始しました。

運輸部

平成25年度船員労働安全衛生月間の実施

～「元気だよ」無事を祈り 待つ家族 この一声でほっとする～



本年度も船員災害の減少と船内における安全で快適な作業環境、居住環境の実現を目指して9月1日（日）～30日（月）の1ヶ月間を船員労働安全衛生月間とし、「「元気だよ」無事を祈り 待つ家族 この一声で ほっとする」をスローガンに月間中、各種の行事を展開しました。

まず、9月2日（月）、沖縄県水産会館において、船員、船舶所有者、関係機関等多数の参加の下、沖縄県で40回目となる船員災害防止大会を開催しました。

本大会では、家族も一体となって、船員災害・疾病の減少目標の達成を目指すことを誓った大会宣言がなされ、また、船員災害防止協会功労者の表彰が行われて式典の部が終了しました。式典の部に引き続き、運輸安全委員会事務局那覇事務所担当官による「船舶事故ハザー

ドマップ、運輸安全委員会の調査事故事例紹介」と題した特別講演が行われ、事故が多発する場所や実例の紹介に参加者は聞き入っていました。

このほか、会場には作業用救命衣、救命浮環等、船員の保護具の展示場も開設され、年々高機能になっていく保護具に参加者の関心が集まりました。

また、月間中は訪船指導員が県内各港に停泊中の船舶を訪れ、海中転落事故を防ぐための舷梯（岸壁と船舶を結ぶはしご）の設置状況や床面等の転倒防止のための安全措置、さらに、飲料水の水质検査や医薬品等の備付け状況等の点検指導を行いました。



大会宣言



特別講演

2013年 漁業センサス



漁業センサス

海面漁業調査 及び
内水面漁業調査 平成25年
11/1

流通加工
調査

平成26年
1/1

地域の未来につながる大事な調査です



調査へのご協力をお願いします

農林水産省



政府統計

沖縄総合事務局

<http://www.ogb.go.jp/>

広報誌【群星】に対する「皆様の声」をお待ちしています。

平成25年度における本誌の原材料調達・印刷・流通・廃棄に伴うCO₂排出量約9.0t(235g/1冊)は、沖縄県内事業者が創出した国内クレジット(排出権)でカーボン・オフセットいたします。

